

## 29-0806

口内炎治療を目的とした口腔内付着錠の調製と評価

○武田 知加子<sup>1</sup>, 高橋 由里<sup>1</sup>, 瀬戸 勇<sup>2</sup>, 河野 源<sup>2</sup>, 町田 良治<sup>1</sup> (<sup>1</sup>星薬大,<sup>2</sup>NRL  
ファーマ)

**【目的】**口内炎は物理化学的の刺激物質の直接接触やウイルス、アレルギーなどが原因で口腔粘膜や舌に起こる炎症性疾患である。本研究では、口内炎治療を目的として、抗炎症作用などを有するラクトフェリン(LF)を含有する口腔内付着錠(LF 錠)を調製し、その錠剤特性およびラットを用いた *in vivo* 実験により治療効果について評価することで、LF 錠の口内炎治療剤としての有用性について検討した。

**【方法】錠剤の調製:** 1錠中の LF 含有量を 25mg に固定し、粘膜付着性高分子であるペクチンと吸水性改善を目的とした添加剤であるキシリトールを添加し、直接打錠法により調製した。キシリトールの添加量は 0、5、あるいは 15mg/tab とした。**特性値の測定:** ①硬度②吸水性③錠剤からの LF の放出性について検討した。***In vivo* 実験:** SD 系雄性ラットを用い、氷酢酸を粘膜に適用することにより口内炎発症モデルを作製した。無処置群(コントロール)と LF 錠投与群について比較検討した。LF 錠投与群にはキシリトールを 15mg/tab 添加した LF 錠を 1 日 1 回、7 日間投与した。ペントバルビタール麻酔下で LF 錠を口内炎部分に貼付し、40 分以上錠剤が付着していることを確認した。口内炎を作製してから、2、3、6、9、12、16 日後に潰瘍の面積を測定した。

**【結果・考察】**引っ張り強度においては、キシリトールを 15mg/tab 添加した錠剤が最も高い値を示した。キシリトールの添加量が増加するに従い、吸水速度が上昇し、LF が速く放出される結果が得られた。*In vivo* 実験ではコントロールと比べ早期に潰瘍面積が減少する傾向が認められた。以上の結果より、口内炎治療における口腔内付着錠として LF 錠が有用である可能性が示された。